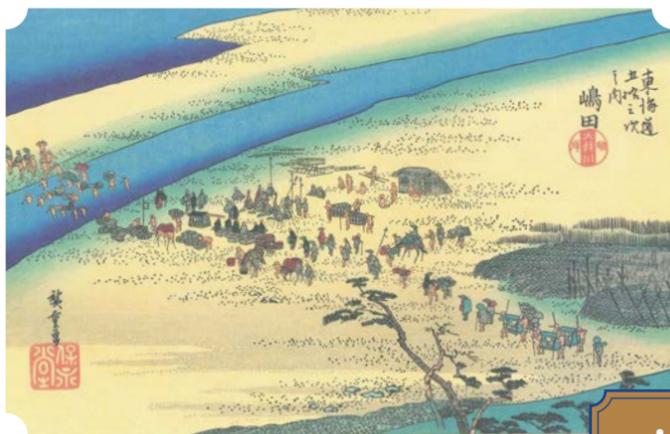


東海道五十三次を往く

第19回

島田宿



東海道きつての難所
「越すに越されぬ大井川」

大井川の徒歩渡し待ちを受ける難所が、ここ島田宿。当時は、「川越し」の料金所(川会所)や、人足の待合所(番宿)などがあり、宿場で川渡し業務を行っていた。現在は、大井川川越遺跡として、当時の様子を復元した家屋や川会所で、御駕籠や木札も見学でき、江戸時代にタイムスリップできる。ひと足延ばして、島田駅から南東にある、「世界一長い木造歩道橋」、蓬萊橋へもぜひ、訪れたい。

蓬萊橋

長さ897.4mの木造の橋は、明治12年に大井川に架けられたもの。「厄なし(8974)の橋」や「長生き(長い木)の橋」とも呼ばれ、歩行者と自転車のみの歩行が可能。



下本陣跡周辺

宿場の中心だった「おび通り」。からくり時計下に記碑がある。



石畳の中腹に祀られている「すべらず地藏尊」は、合格祈願の名所に



大井川遠岸

広重は島田宿と同様に大井川の様子を描いた。当時、川越し場には、10軒の番宿や川会所があったという。



金谷宿

旅人を悩ませた
急勾配の石畳坂へ

大井川を渡ると着くのが、金谷宿。当時、川越し場には、番宿や川会所があり、その先には難所である石畳の坂道が続いた。現在は、里塚跡や2つの本陣跡が、立て札で丁寧に案内され、当時の様子をうかがえる。本陣跡を過ぎると勾配が増し、金谷坂へ。430m続く金谷坂石畳を抜けると、611m続く下りの菊川坂が待ち受け、アップダウンが続く。途中、茶畑が広がる景色の中での散策は爽快だ。

日本橋から23番目の島田宿と24番目の金谷宿。難所続きの宿場をミスマ編集部が巡りました。



今でもこの急坂を歩くのは大変です！

石畳(金谷坂)

江戸時代末期、急坂なうえ粘土層ですべりやすいため、すべり止めとして「山石」が敷き詰められた。金谷坂は明治以降に石畳30mを残して舗装されてしまったが、平成3年に、町民の働きかけにより、430mまでに延長された。

石畳へ向かう前に、一軒家カフェで一息を

徐々に上り坂に



柏屋本陣跡・佐塚本陣跡

柏屋本陣はかつて尾張徳川家・紀伊徳川家の定宿だった。佐塚本陣跡には、同じ「佐塚」の名が付いた書店が。



昔の宿場の様子が！

まだまだ難所が続く



石畳(菊川坂)

下りの菊川坂では、広大な茶畑の絶景の中を歩くことができる。平成12年に発掘され、県の文化財に指定された。東海道で往時の石畳が残るのは、金谷坂・菊川坂と箱根だけ。